

お知らせ

本誌『陽明学』は、十六号を以つて市販（有料）という形を終えました。十七号以降は、『二松学舎大学東アジア学術総合研究所陽明学研究所』発行となり、研究所（研究部）の紀要となりました。

従いまして、現在までご購入いただきました読者の方々に、継続希望の方は研究所（研究部）まで文書でお申し込み下さい。

◎申込先

〒一〇二一八三三六

東京都千代田区三番町六一一六

二松学舎大学東アジア学術総合研究所

陽明学研究所

編集後記

平成十六年四月一日付で本学は「東アジア学術総合研究所」を新設し、旧陽明学研究所が吸収され、陽明学研究所の名称で再出発したが陽明学は二松学舎の建学精神であり、伝統である。よつてこれを尊重する

ために新しい運営委員会で、陽明学研究所時代の機関誌『陽明学』は今後も継続して独立発行することを決定した。この度発行される『陽明学』十八号は陽明学研究所としては第二号である。

陽明学研究所（部）は昭和五十三年四月に創設され、すでに十八年の歳月が経つた。

この間研究部はただ日本の陽明学研究所の風潮を振興しただけでなく、中国における陽明学の研究重視にも間接的に影響してきた。また同時に陽明学の日・中交流にも着々と進んでいる。そしてなにより、陽明学機関誌の存続は今、日本の陽明学研究者にとつての研究発表の主たる場となっているのである。

さて機関誌『陽明学』第十八号（春日潜庵特集号）をお届けいたします。

本誌の巻頭論文には総合地球環境学研究所研究部教授木下鉄矢先生の玉稿、二本目は東洋大学文学部助教授小路口聡先生の玉稿、三本目は浙江省社会科学研究院研究員・浙江工程学院教授・国際陽明学研究中心主任銭明氏の玉稿。（翻訳渡邊賢先生、埼玉大

学、本学非常勤講師）以上三玉稿を頂戴し感謝に堪えない。

特集に移つて、福岡女子大学名誉教授足田啓佑氏、東洋大学文学部教授吉田公平氏、久留米大学客員教授福田殖氏等それぞれ斯界の碩学専門家に執筆願えたことは幸いなことであつた。また二松学舎大学宋明資料輪読会の諸先生の研究報告、また本誌の紹介と短評、陽明便り、学会報告等は足田啓佑先生より全面的にお世話になつた。陽明学研究所はこれから新体制のもとで運営し発展させていきたい。また大方のお力添えを懇請して已まぬ。

（張明輝 記）